

# 原風景をゆく

## 歴史の足跡

高山村を囲む山々は、太古からこの地で暮らす人々、訪れる人々を見つめてきました。日本最古の歌集「万葉集」の東歌に「赤見山草根刈り除け逢はずがへあそふ妹しあやに愛しも」と情熱的な恋が歌われました。赤見山は高山村を囲む北輪の山と考えられています。

高山村内の中山、尻高の地名は古くからあり、上杉、武田、真田氏など戦国武将の激しい攻防もこの地で繰り広げられました。江戸時代には三国街道の宿場として多くの往来で栄え、参勤交代の大名が宿泊する本陣も置かれました。



中山城址石宮

した。志を立てた塩原太助が愛馬「青」と惜別したと伝えられる「馬つなぎの松」も三国街道の金比羅峠に残っています。

大正7年（1918）秋、全国を旅し、奥利根から信州に向かっていた歌人・若山牧水は権現峠で寝ころんで休んでいたところ雨に降られ、高山の里で暖かな宿をとりました。翌日、牧水は村を流れる名久田川のほとりで娘に話しかけ、遠く見える浅間山の名をたずねたということです。

高山村には忘れられていた旅情と自然、時を積み重ねた歴史があふれています。

①中山城址  
鎌倉時代初期に武蔵国児玉党の阿佐見実高が築城したもので、代々中山氏と称し、17代約380年、この地を治めました。

②尻高城址  
古屋の要害城と並木の里城からなっています。築城は室町時代、応永8年（1401年）に白井城主長尾重国の三男重儀によって築られました。



②尻高城址



①中山城址

③三国街道の中山宿  
三国街道は、江戸時代に大名や佐渡金山奉行の通路として栄えました。中山宿の本宿と新田の本陣跡は昔の面影を偲ぶことができます。

④塩原太助馬つなぎの松  
塩原太助が江戸の薪炭商に奉公に出るため、故郷新治村を出奔し金比羅峠まで来て、松の木に愛馬「青」をつないで別れを惜しんだと言われています。



④塩原太助馬つなぎの松



③三国街道の中山宿

歴史と伝統が息づく村に  
今が加わり、独自の時が刻まれる

## 年間伝統行事

1月	中旬	各地区どんど焼き
	18日	厄除北向観世音祭典
2月	11日	金甲稲荷祭典
		北之谷稲荷祭典
	第4土曜日	星まつり
4月	1日	中山神社祭典
	中旬	尻高神社祭典
	15日	三島神社祭典
7月	下旬	各地区夏まつり
8月	14日	高山村ふるさと祭り
	下旬	役原獅子舞
9月	1日	中山神社祭典
	15日	三島神社祭典
		尻高神社祭典
10月	体育の日	高山村民運動会
11月	中旬	高山村文化祭
	23日	「尻高人形」定期公演
12月		名久多教会クリスマス会



星まつり



おぎょん



高山村ふるさと祭り



高山村ふるさと祭り



役原獅子舞



三島神社の太々神楽



尻高神社の太々神楽

## 宿場町のにぎわいを伝える 新田宿復活祭

江戸と越後を結ぶ街道は、佐渡で産出された金を輸送する役割を担い、幕府の重要路線でした。最も距離の短い三国街道は古く往来が多く、慶長17年（1626）年に高山村の中山地区に中山宿が定められ、宿内の本宿と新田宿の2カ所が宿駅を担いました。参勤交代の大名や幕府公用役人が宿泊する本陣は、宿場の有力者名士が任じられ、風格の高い屋敷が整えられました。

新田宿の本陣は文政年間に焼失しましたが、参勤交代で利用していた長岡藩主らの寄進で再興、本陣跡の「平形家住宅門屋」に当時、そのままの書院が残っています。本宿本陣は大正時代に焼失、街道に面した門構えと裏庭は本陣の面影を偲ばせています。村では往時の賑わいを今に伝え、村の活性化につなげようと「旧三国街道新田宿復活祭」を開催、毎回地域の人々や観光客で賑わっています。

